

集会案内

日曜日

礼拝：2:00pm-2:45pm

教会住所

c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637
中庭の小さいチャペル

地図



ホームページ

www.irvinihongokyoikai.org

榊原宣行牧師

電話(714)827-6244

Eメール: nobu@occc.org

杉村宰牧師

電話 (714)527-1456

Eメール:sugimura1950@gmail.com

◎石叫 ■

「ウクライナ侵攻」

ウクライナに軍事侵攻を続けるロシアとの三回目の直接交渉が七日にも行われるという中、ロシアの攻撃は一段と激しさを増している。その最中、隣国・ポーランドでは、日本人の男性がウクライナから逃れてきた妻と子どもと三ヶ月ぶりの再会を果たした。日本人男性の妻は「すごく大変で怖かった。戦争は怖い。ずっと緊張していた」と語った。日本人男性も「本当に、皆さんのご支援のおかげで本当に助かりました。ありがとうございます」と。男性の妻は二〇二一年十二月から、生後数ヶ月の赤ちゃんをウクライナに里帰りをしていたところ、ロシアによる軍事侵攻が始まり、三月に入って避難を決断。ほぼ三日かけてポーランドに渡った。(二〇二二年三月七日『FNNプライムライブ』)

ロシアによる軍事侵攻によって、ウクライナからの避難民が日ごとに増え続けている。その避難民の中で、ウクライナのザポリージャ(原子力発電所が設置)という街から一〇〇キロの道を列車でポーランドに避難してきた男の子の映像が流された。彼は一人泣きながら足を引きずるようにして歩いていた。スロバキア内務省は「彼はビニール一袋とパスポート、そして自分の手に電話番号を書いて、たった一人でやってきました。親がウクライナに残らなければならなかったからです」と説明した。その子は十一才で、内務省は少年の母親の動画を発表し、「私の息子を守ってくれた皆さんに心から感謝をしています。お願いします。ウクライナの子どもたちを守ってください」と涙ながらに訴えた。当局は少年の電話番号を手がかりに首都ブラスラバに住む少年の親戚に連絡を取ることができた。映像には、避難先のポーランドで温かく迎え入れられ、保護された少年の笑顔が写っていた。(二月七日の『NHKニュース7』)

今回のロシア軍によるウクライナ侵攻によって一番辛い思いをするのは、身重の女性や幼子たちであろう。マタイ福音書にも「その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である」(二四・一九)とある。これは世の終わりの描写であるが、それが今や現実になるうとしている。男は祖国のために戦うために残るが、今後どれだけ多くの犠牲者が出るのか。主イエスの再臨によって世界が治められ、真の平和が到来することを心から待ち望むばかりである。

Rev. Tsukasa Sugimura

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。現在は、榊原宣行牧師の監督のもと、杉村宰牧師と啓子師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と、信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令(マタイ28:18-20)に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。